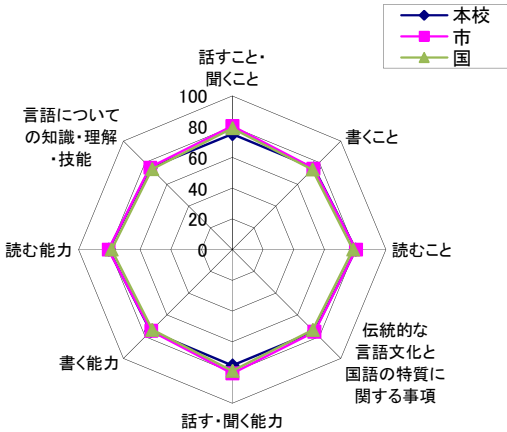


宇都宮市立田原中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

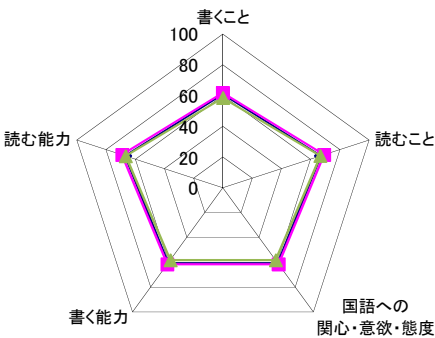
★本年度の国、市と本校の状況
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	75.3	80.5	78.9
	書くこと	75.0	74.7	73.7
	読むこと	80.3	80.5	78.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.3	75.6	73.9
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	75.3	80.5	78.9
	書く能力	75.0	74.7	73.7
	読む能力	80.3	80.5	78.6
	言語についての知識・理解・技能	75.3	75.6	73.9



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと			
	書くこと	60.7	61.6	58.3
	読むこと	67.0	69.1	66.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	60.7	61.6	58.3
	話す・聞く能力			
	書く能力	60.7	61.6	58.3
	読む能力	67.0	69.1	66.6
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「聞き手の立場を想定し、話の中心的部分と付加的な部分との関係に注意して話す」「相手や場に応じた言葉遣いなどに気を付けて話す」「全体と部分との関係に注意して話を構成する」問題においては、本校の正答率はそれぞれ84.3%、95.5%、91.0%であり、全国・市の平均正答率より、2～4ポイント上回っている。 ●領域の平均正答率が、全国平均正答率と比べて、3.6ポイント、また市の平均正答率と比べて5.2ポイント下回っている。 ●特に「話の展開などに注意して聞き、自分の考えと比較する」「互いの発言を検討して自分の考えを広げる」の問題において正答率平均が低い。	・話し合いの場において、話し手は自分の考えが分かりやすく相手に伝わるように話の組立てや表現を工夫して伝えたり、聞き手は話し手の伝えたいこと(主張や根拠)をポイントにおき、メモを取ったり、感想や意見を書きまとめて聞いたりするなどして、相互の意識を高めながら学び合える活動を実践できるようにしていきたい。 ・本校の生徒には、自分の意見や考えを恥ずかしがらずに述べることや、相手の意見や考えを尊重して聞くことを、話し合いの場の基本として意識できるように、さらに指導していきたい。
書くこと	○国語Aでは、本校の正答率は75.0%であり、全国平均正答率より1.3ポイント、また市の平均正答率より0.3ポイント上回っている。 ○国語Bにおいては、本校の正答率は60.7%で、市の平均正答率より0.9ポイント低いものの、全国と比べると2.4ポイント高いという結果であった。 ○「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く」では、本校の正答率は86.5%で、全国より8.4ポイント、市より8.8ポイントと大きく上回った。 ○また、国語Bの「課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える」では、全国平均より10.4ポイント高い結果であった。 ●指定された「語句」や「条件」に従って文章表現することに慣れるために、練習を取り入れていく。	・今後も文章構成を踏まえて、根拠を明確にして書く練習を行ってきたい。特に、資料やワークシートで書き方のパターンを学び、習得していくことで「書くこと」への抵抗をなくしていきたい、継続して学ばせていきたい。
読むこと	○国語Aでは、全国平均正答率より1.7ポイント、また、国語Bでも、全国平均正答率より0.4ポイント上回っている。 ○問題において全国と市を特に高く上回ったのは「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」「奥付の特徴や役割を理解する」「奥付を使って本についての情報を得る」であり、最も高い値は全国を10.4ポイント上回った「目的に応じて必要な情報を得る」であった。 ●市の平均正答率で比較すると、国語Aは0.2ポイント、国語Bでは2.1ポイント下回った。	・説明的文章においては、論の展開に沿った要旨を把握することや、筆者の主張とその根拠を捉えていくことを重点的に指導するとともに基本的な、接続語・指示語・にも随時着目させて読解できるようにさせたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○国語Aで、「文脈に即して漢字を正しく書く」と「文脈に即して漢字を正しく読む」は、本校の正答率は95%以上で、全国・市の平均正答率を高く上回る結果となった。特に高い値として、12・0～13・0ポイントを超えたものもあった。 ●全国・市の平均正答率を下回った問題には、「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」「辞書を活用し、漢字が表している意味を正しく捉える」「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む」「歌に表れた作者の思いを想像する」の本校の正答率は50.6%から97.8%で、0.2～9.2ポイント下回った。	・既習漢字の読み書きの定着を図るために、今後も継続して漢字の小テストや練習をさせていきたい。また、語彙力を高めるためにも、自分で辞書を引いて書いたり、読んだりする習慣を付けさせ、言葉への関心を高められるよう意識づけしていく。 ・古文読解の基礎基本となる、歴史的仮名遣いの読みや、現代仮名遣いの直し方を復習し、古文に少しでも慣れ親しめるように図っていく。